

CASBEE® 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.6)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	カゴヤ・ジャパンけいはんなラボB棟	階数	地上4F
建設地	京都府相楽郡精華町精華台7丁目4	構造	RC造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	30人
気候区分	地域区分Ⅲ	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年4月 予定	評価の実施日	2013年4月22日
敷地面積	4,314 m ²	作成者	森
建築面積	969 m ²	確認日	2013年5月8日
延床面積	3,275 m ²	確認者	蔵品



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
 ①参照値 100%
 ②建築物の取組み 93%
 ③上記+②以外の 92%
 ④上記+ 92%

(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
 Q3 室外環境(敷地内): 3
 LR3 敷地外環境: 3
 LR2 資源・マテリアル: 4
 LR1 エネルギー: 4
 Q1 室内環境: 0

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.4

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項

総合	その他
基礎免震構造による高い安全性と、設備・電気配管、配線ルートの二重化、機器のN+1台設置といった冗長性を有し、24時間365日ノーダウンセンターとして計画された。環境負荷の低減にも配慮し、フリークーリングによる省エネルギー化システムが組まれている。また、周囲への景観配慮の観点から、前面道路から十分な引きを確保した配置計画とし、設備機器が十分隠れる目隠し壁を設置している。	屋上に設置する設備機器にはサイレンサーを設け、メンテナンスや定期点検時の騒音対策を施している。また、建設工事時の安全な工事車両ルートの設定、工事騒音対策により近隣への影響を低減している。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能
	高電圧容量を確保し、共用部から各設備シャフトをメンテナンスできる計画としている。また、サーバ増設及び更新ルートの搬出入有効確保など、運用性を高める施策を講じている。高いセキュリティを意識した動線計画、
Q3 室外環境(敷地内)	Q3 室外環境(敷地内)
	府条例による緑化促進制度に基づく緑化面積を確保している。また、既存棟との調和を考慮した外観デザインとし、前面道路側から十分な引きを確保・駐車場を敷地後部に配置することで、景観に配慮した計画としている。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル
太陽光発電パネルを敷地内に設置。通信機器室の空調は中間期から冬場にかけて外気を利用するフリークーリングシステムを採用することによって、省エネルギー化を図っている。また、事業主が有する高い中央監視システムによって、通信機器室内の温湿度環境をスポットで把	リサイクル材の積極的利用と乾式工法による内外装仕上によって改修、更新時におけるリサイクルを促進する取組を行っている。ノンフロン断熱材や冷媒の採用、不活性ガス消火にはN2ガスとして、フロン・ハロンによる消火剤の利用を回避している。
LR3 敷地外環境	LR3 敷地外環境
	適切な量の駐車スペースを確保し、周辺道路の渋滞緩和に配慮している。外壁にはサインや窓を設けず、照明による光害がなく、前面道路側の既存植樹帯を生かすことで、周囲と協調性のある景観となるよう計画している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される